

## 2016年えりも以東海域シシャモ漁期前調査結果について

### はじめに

シシャモは世界的に見ても北海道太平洋沿岸にのみ分布することから、地域特産種としてその希少さとおいしさが相まって、非常に珍重されている重要な資源です。その漁獲量は、えりも以東海域では、ピークであった1990年代の2,000トンを超える水準よりは減少しているものの、依然500~1,000トンを維持しており、比較的安定していると見ることができます。

釧路水試では、試験研究は今No.514に紹介されているとおり、毎年9月上旬から10月上旬にかけて庶野・十勝・釧路海域において漁期前調査を実施しています。その結果にもとづいて、その年の漁獲量を予測し、それを参考にして漁業者自らが目安の限度量を設定しています。2016年は例年にない環境と分布の変化が認められましたのでその状況を報告します。

### 2016年漁期前調査結果

えりも以東海域における漁期前調査は、襟裳岬東側の庶野沖から釧路町昆布森沖までに調査点を設定しています。2016年9月5~14日に、庶野・十勝海域の百人浜沖~大津沖において合計26点、9月26~30日に釧路海域の厚内沖~跡永賀沖において合計21点で曳き網によってシシャモを漁獲しました。

・分布の変化：シシャモの分布が地域的に非常に偏っていました。例年、各調査点のシシャモの漁獲量は、庶野~十勝~釧路海域にかけて地域的な偏りはありませんでしたが、2016年は庶野沖でシシャモが多く漁獲され、広尾沖から大津沖にかけて少なくなりました(図1)。さらに東側に進んで、厚内沖から音別沖では漁獲量は少なく、釧路沖から跡永賀沖にかけて再び多くなりました。

漁獲量が大樹沖から庶路沖にかけて少なかった原因を探るため、水温の影響を検討してみました。過去の漁期前調査におけるシシャモの漁獲量と水温の関係によると、水温が14~15℃で漁獲量が最も多く、それを超えると漁獲量が急激に少なくなることがわかりました(図2)。実際の調査地点の底層水温は、漁獲量の少なかった大樹沖~音別沖では18~

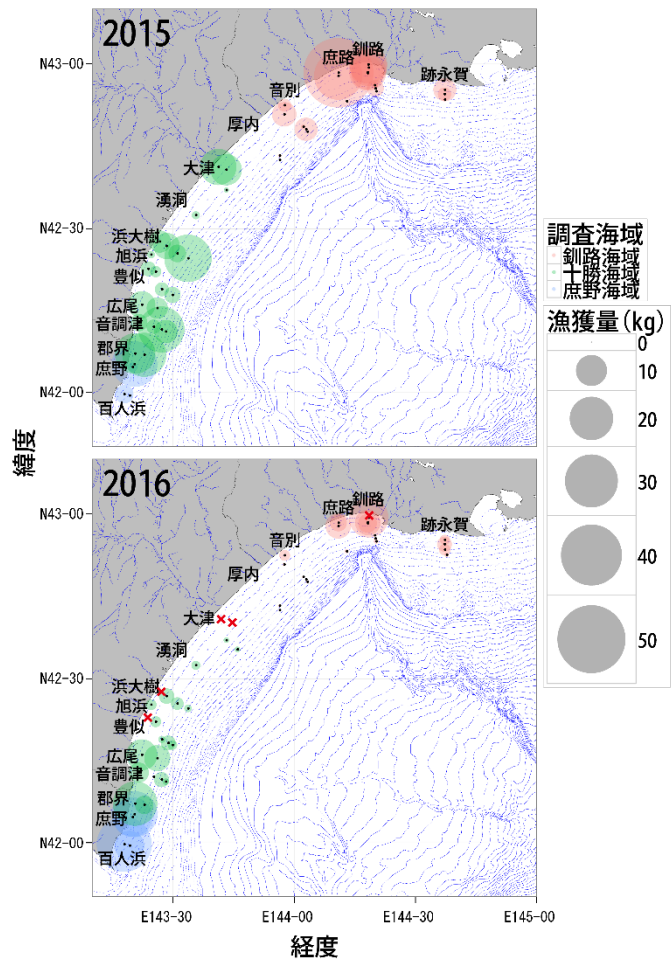


図1 庶野・釧路・十勝海域における漁期前調査によるシシャモ漁獲量(赤の×印はゴミの入網による欠測地点を示す)

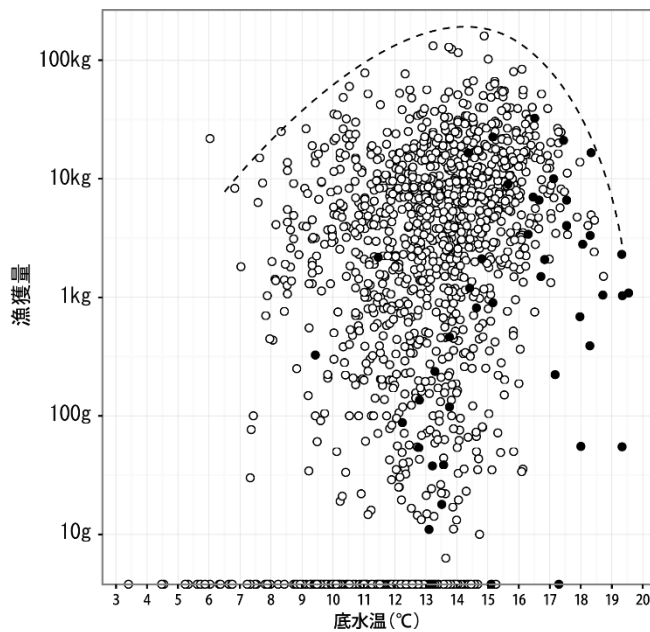


図2 庶野・釧路・十勝海域における漁期前調査によるシシャモ漁獲量と水温の関係（黒丸は2016年の結果）

21℃と例年になく高く、漁獲量の多かった庶野沖や釧路沖では例年並みかやや高い水温でした（図3）。このようにシシャモの漁獲量が地域的に偏っていたのは高水温の影響を受けていた可能性が高いと考えられました。

また、2016年に相次いで北海道に上陸した台風によって引き起こされた十勝地方の洪水は、シシャモ漁場にも大きな影響を与えました。庶野・十勝海域における漁期前調査は台風通過後間もない時期に実施したため、調査点への移動中も海面に流木が漂流している状況が見受けられ、時折、船にぶつかることもありました。幸い調査時には、網を破損することはありませんでしたが、河口に近い調査点では、流木、草や木の根、泥などが入網し、曳網中に船が止まる・網が揚らないことによって欠測となりました（図1）。10月に入りししゃもこぎ網漁業が解禁されると、網が揚らない・網を破損するなどの被害が続出し、シシャモ

の重要な漁場である水深10m前後が漁場として利用できない状況となっているようです。

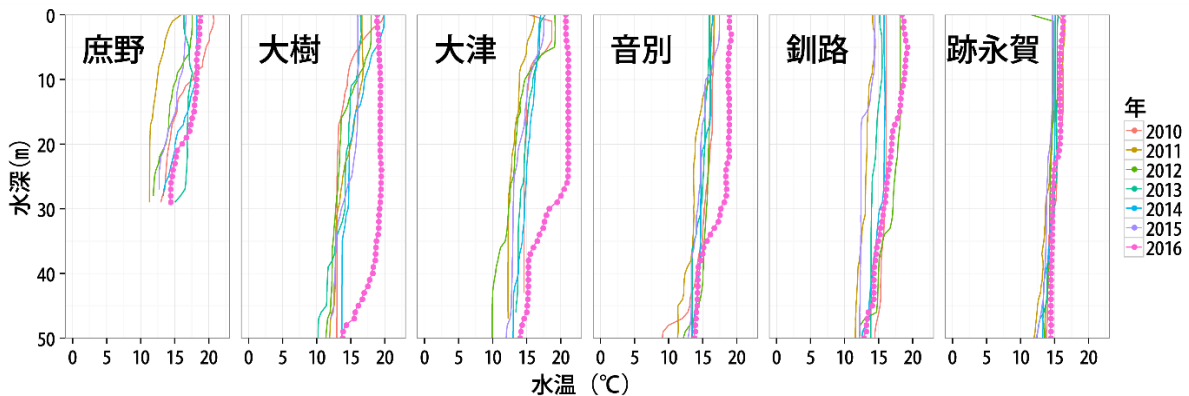


図3 庶野・十勝・釧路海域における漁期前調査による主要調査点の水温の鉛直分布

## おわりに

「えりも以東海域ししゃもこぎ網漁業打ち合わせ会議」では、水試が行っている漁期前調査の結果から推定された予想漁獲量をもとに目安の限度量を設定しています。2016年の漁獲量は過去最も低いと予想され、それに合わせて目安の限度量も過去最低の630トンに設定されました。漁期前調査時の高水温が影響して、予想漁獲量を過小評価している可能性は否定できませんでしたが、資源のことを考えて安全策をとった形です。

道東海域の高水温は、中央水試によって事前に注意報が発令されていましたが（太平洋高水温情報：[http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/att/2016\\_PacificTemp.pdf](http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/att/2016_PacificTemp.pdf)）、シシャモの分布にも影響を与えていたようです。えりも以西海域では、夏場の水温が高いことが漁業と資源に影響を与えていることが指摘されており（試験研究は今 No.754「沿岸水温がシシャモ漁業にあたる影響について」）、以東海域においても同じような影響があるかどうか検討する必要があります。

（北海道立総合研究機構 釧路水産試験場 調査研究部 山口浩志）